

## 令和2年度 第1回新潟市歴史博物館運営協議会 会議録要旨

【日時】 令和2年7月30日(木)  
14時30分～16時00分

【場所】 新潟市歴史博物館セミナー室

【出席委員】 池田 哲夫 会長 (新潟大学人文学部名誉教授)  
本井 晴信 副会長 (元新潟県立文書館 副館長)  
石田 克弥 委員 (日本旅行業協会 新潟県地区委員会 委員長)  
上村 啓 委員 (BSN新潟放送 事業局次長兼事業部長)  
久保 有朋 委員 (古町花街の会)  
坂井 孝 委員 (新潟市立南浜中学校長)  
佐藤 忠浩 委員 (新潟日報社 読者局 事業担当部長)  
津野 治彦 委員 (新潟市立亀田小学校長)  
橋本 博文 委員 (新潟大学人文学部名誉教授)  
羽生 頼子 委員 (公募委員)

【オブザーバー】 廣野 耕造 新潟市歴史文化課 課長補佐

【事務局】 伊東 祐之 新潟市歴史博物館 館長  
小林 隆幸 新潟市歴史博物館 副館長  
伊藤 泰介 新潟市歴史博物館 総務担当次長  
大森 慎子 新潟市歴史博物館 学芸担当次長  
鷲尾 雄二 旧小澤家住宅 館長  
石田 孝子 新潟市歴史博物館 企画普及課長  
森 行人 新潟市歴史博物館 学芸課長  
設楽 明子 新潟市歴史博物館 職員  
高橋 久美 旧小澤家住宅 職員

## 【 次 第 】

### 1.開 会

### 2.館長挨拶 詳細別紙

### 3.各委員 自己紹介

### 4.議事

#### (1) 令和元年度の館運営報告

##### 1) 博物館

##### 2) 旧小澤家住宅

資料 1～6 に沿って、事務局から説明。

#### ≪ 質疑応答 1 ≫ 詳細別紙

#### (2) 令和2年度の館運営状況

##### 1) 博物館

##### 2) 旧小澤家住宅

資料 7～13 に沿って、事務局から説明。

#### ≪ 質疑応答 2 ≫ 詳細別紙

#### (3) 次期指定管理申請について

事務局から口頭で説明。

詳細別紙

### 5.閉会

## 《館長挨拶》

(伊東 館長)

博物館会議の際に、東日本大震災で被災した博物館の館長さんたちから話を聞くと、館長さん始め館の皆さんはこの大変な被害を受けて生きるか死ぬかの中で、博物館に何ができるか、本当に自分たちは必要とされているのかと自問自答して悩み、それぞれの博物館が置かれた立場に応じて様々な対応をしたと語っていた。現在、世界中の博物館がコロナ禍の中で同じことを考えている。東日本の時には地域博物館がどういう役割を果たすかということで色々と活動をした。大船渡だとか陸前高田だとかは地域の文化がどのように継承され、蓄積されてきて、今こうして文化を持つ存在としてここに生きているんだということを提示し、地域の持っているアイデンティティはこういうものだということを確認してきた。人々もそれを求めたし、博物館もそれができると喜んだ。そういったところが地域博物館としての総括となった。

みなとびあも地域博物館のひとつとして地域文化を提示できることは喜び。新潟の歴史・文化を明らかにして市民に提示する、そのために調査研究することが非常に大事だと私たちは認識している。その中で今回の企画展『潟の暮らし展』を無事開催することができたのは非常に嬉しいことである。

今、博物館の置かれている状況は非常に厳しい。昨年来、新潟市の財政難が声高に言われるようになり、新型コロナウイルス感染症も関連して来館者の減少問題もある。あちらこちらから、税金を投じてそれに見合う収益を上げられない施設は本当に必要なのか、場所ばかり取って役に立たない歴史資料を取っておかなければならないのか、ということが言われるようになってきている。もちろん私たちはその意義その必要性を語ることはできるが、私たちがいくら声高に叫んでも結局自己保身にとられる。市民から「博物館が必要だ」「こういうことをやってくれるのは博物館だ」と言ってもらわないと存続が難しくなっている。

現実に全国各地の博物館・資料館で閉館を迎えているところもある。その中でこの半年間を過去と比べて振り返ってみると、一番気付いたことは子どもの声がしないこと。やはりみなとびあは子どもがたくさん来てくれる、子どもの学校教育に必要とされる施設だったと実感している。他府県との交流が行われるようになってきて、それまで減っていた常設展示の観覧者はこの4連休にかなりの数が戻ってきた。そう考えると、観光で新潟に来られる方が新潟を知る場所としてみなとびあを選んでいて、観光施設としての役割があったと感じる。また、イベントが開催できずに体験プログラム・講座など中止せざるを得なかった。ボランティア活動もぱたっと止まった。この施設を生涯学習の場として

考えている方もたくさんおられる。今後、ウィズコロナの時代にこういった機能をより強化し、かつ新たな制限や要請に対応したかたちで博物館を運営していくのが必要だと実感している。

現在の指定管理が今年で終わる。もうすぐ新潟市から市の考える歴史文化振興の方針、ビジョン、みなとびあをどう運営していったら欲しいのかが示される。それに応えるかたちで私どもが新たに考えていること、今やろうとしていることとすり合わせて具体的な運営計画を市に示し、新たな応募をして、来年度以降、再びみなとびあ旧小澤家住宅の指定管理をしていきたいと考えている。その直前の運営協議会となるので委員の皆さまにも今後の館のあり方などについてご意見をいただきたい。

#### 《 質疑応答 1 》

(本井 副会長)

今後の新型コロナウイルス流行の予測がつかない。こういう状態が普通になっていくのではとも危惧されるが、特に今「環境を良くする」ことが基本・必要と言われている。今後、毎年ではなくても設備の更新や新調など計画的に考えていることがあるか。

(小林 副館長)

ハード面では空調設備が17年目を迎えており、空調が効かないと換気がうまくいかないので、空調機をコロナに合わせて修理を予定している。

運用面では環境を良くするために、ドアを開けたり、三密にならないように人数制限するなどの対応をしている。

これがどこまで続いていくのかは当然考えていかなければならない。他の博物館等の取り組みも見ながら、計画を策定していかなければならないと考えている。

(本井 副会長)

光熱水費がかなりプラスになるのではないかと。入館者数減で収益マイナスとなると毎年確保が難しいのでは。

(小林 副館長)

これから夏が本格的になっていき、空調機もますます大きく稼働していく。機械が壊れると夏も過ごしにくくなっていくので、空調の方は手当をしようということになっている。

---

(橋本 委員)

今の発言に関連して、昨日たまたま群馬の県立歴史博物館と県立近代美術館に寄って来た。受付の対応は国立・県立・私立でまちまちのようだ。

群馬の場合は、入館に関しては前日までの事前予約制で、当日は空いていれば入れてもらえるそうだ。まず入館時に体温測定をして、来館者カードに住所・名前・連絡先を記入した。クラスター対策だと思うが、それを記入してようやく入館させてもらえる、という状況だった。

特段、国・県などから指導や基準といったものはあるのか。

(廣野 課長補佐)

新潟市としてガイドラインを設定した。緊急事態宣言後、臨時休館からの再開を目指して5月8日に、国のガイドラインを受けるかたちで県からガイドラインが出た。博物館協会がガイドラインを出す前に県のガイドラインが出ている。それを踏まえて、市の歴史文化施設におけるガイドライン総則を簡単に作成した。お客様の数や施設の構造などはさまざまなので、その総則を骨組みとして、みなとびあ、小澤家、ほかには新津鉄道資料館などがあるが、各施設で機能が違うので、それぞれに合わせるかたちで細かい数字を加えてガイドラインとして運用するようにお願いしている。

基本的な考え方としては、県の出しているものに肉付けして作成しているということ。そう大きく違いはないと感じている。またガイドラインについては民間事業者が参考にできるよう市のホームページに掲載している。

---

(久保 委員)

2点質問がある。1点目は、ボランティアは現在111名ということだが、新規登録にどのような動きがあるか。コロナの状況を受けて稼働率はどの程度か。また、コロナを受けてのボランティアに対しての対策。例えばガイド時に気を付ける点の説明など運営側で何か行っていることがあればお聞きしたい。

(小林 副館長)

新規ボランティア10名ほど申し込みがあったが、研修をストップしていた。ようやく7月から新規ボランティア研修を再開した。

基本的にボランティア活動なので、強制できるものでないと考えている。ボランティア活動する側の意思に任せていたが、来られる方もびたっと居なくな

った。よってほとんどボランティア活動をしていない。最近になって少しずつボランティアさんが見えるようになったがまだ活動する状況に至っていない。

ボランティアに向けての対策についてはこちらから「こうしてください」というのは特にしていない。「新しい生活様式」に基づいた行動を各自で行っていただいていると思っている。

(鷺尾 小澤家館長)

当館におけるボランティアガイドについて簡単に説明させていただく。

名簿上は約40名、実働は20名位。コロナで皆さん自粛されていたが、5月臨時休館が明け再開してしばらく経った頃から少しずつ戻ってきている。当館では基本的に団体を受け付ける時にはガイドを付けるか確認しており、希望があった場合は密にならないように割り算をしてガイドを付けている。

7月の月上旬～中旬から少しずつこのような動きになっているが、これまで正式にコロナ対策として当館の考え方、新潟市の考え方を示してこなかった。学芸員の方で行う勉強会も中止していた。昨日7月29日に久しぶりにボランティア会議を開き、当館の考え方、新潟市の考え方を伝える場ができたので、案内していただく際の注意事項を説明させてもらった。

今後については、コロナ対策の意識もされて頼みやすくなったので、ボランティアガイドの方に力を借りながら運営していきたい。

---

(久保 委員)

2点目。税関の来館者数について、カウントはしているが記載していないとあるが、重要文化財ということで私も大変興味のある貴重な史跡なので参考に教えていただきたい。

(小林 副館長)

税関については天候に左右されることが多い。春、天候の良いときは、お客様は施設の中にまでは入らないが、史跡がいい散策コースになっているので、休日などになると1日200人くらいは入られている。

## 《質疑応答2》

(津野 委員)

意見になるが、みなとぴあの子どもたち対象の事業について。

冒頭、館長挨拶でも「子どもの声がしない。」と言われたが、私もぜひ小学校

卒業まで、少なくとも中学校卒業までに一度はみなとびあに来館して欲しいと思っ

ている。  
とは言え、私どもの亀田からここまでは来ていない。理由は交通費の問題。子どもたちをここまで連れてくるには無料バスの援助を考慮していただければと思うが、そのお金がつくかという点も難しい。そうすると子どもたちが来た時に提供する内容と宣伝方法を工夫していかなければいけないと思う。

内容としては、子どもが来るのは3年生の秋～冬にかけて。昨年は107校、今年は現在まで2校ということでこれから増えていくとは思いますが、今年は確実に昨年度より減ると思う。すると来年はもっと減ることになる。それは今年見学しないで社会科の授業が修了すれば、来年はやらなくていいのじゃないかと思

考が行く可能性がある。  
小学校の学習指導要領が今年から変わり、3年生は税金、人口、市の移り変わりを教えることになったが、実際社会科を担当している先生方は専門ではないので副読本を一生懸命やっている。そういう子どもたちに生の体験をして欲しい。社会科が苦手な先生にもこうすればできるという内容を提供するには、先生方から意見を貰う場を設けるのがいいのではないか。

これは6年生にも言える。今までは導入で近くの博物館を訪ねるというのがあったが、今内容が変わって政治から始まるようになってそれは期待できなくなった。そこで、歴史をひと通り学んだあと、新潟市の歴史とどう結び付くかを考えるようにして6年生がここに来る機会を新しく設けるということができると思う。そういうアイデアを現場の先生に貰うといいと思っている。

宣伝方法としては、前回もお話させてもらったが、4月時点でその年度の見学計画が立ってしまいバス代も予算を立てなければいけない。無料バスがあればいいのだが。だから4月までに如何に宣伝するかが大事。校長会で宣伝するなど工夫したらいいのではないかと思う。

(小林 副館長)

3月の運営協議会の際にご意見をいただいております、4月当初に宣伝する予定で進めていたが、年度末、先が見えない状態になった。学校側も状況が把握できず、とりあえず様子を見るしかなかった。今後、ご意見は参考にさせていただきたい。我々がやらなければならない部分も増えてきたので、これからどうかたちにしていくか詰めていく。

なかなかこちらに来られないという話もあったが、一方で学校の方に来てほしいという要望もあり、これまで3校実施している。こちらから職員が出向く方法も考えていった方がいいのではないかと話し合っているところ。

そういったところで社会科の先生方のご意見も聞いていきたい。

---

(本井 副会長)

いっぴん展は新しい視点からの企画展で面白いと感じた。こういったことをしないと企画展の中には入れにくい・紹介しにくい資料もある。一般のイメージと合致するものと位置づけるのは難しいと思うが、そこは工夫次第で、それぞれ単独のステージでも面白かった。学芸員の気持ちがこもっているのが感じられた。自画自賛で結構。これからも繰り返し続けてほしい。

博物館はこんなものを収集している、こんなものもある、という新しい視野を一般に向けて積極的に紹介してほしい。本当はこれだけのものがある、こういう類が収集されている、数集めてみると価値が出る、そういう説明も大いに欲しい。一方で「これだけあるからもう十分、もっと目新しいものを欲しい」と穿ってしまうような感じがする面もあるのでそこは工夫次第。博物館には色々な顔がある、博物館は色々なところに興味を示していることを積極的に宣伝して進めてほしい。

---

(羽生 委員)

この席に座らせていただいたことをきっかけに、博物館講座に何度か参加している。実にたくさんの方が講座を聞きに来ていることに驚いた。

今後、博物館講座の中でも特に歴史ファンに対して講座のかたちを変えてやっていくような計画はあるか。

(小林 副館長)

内容を変えるまで踏み込んでいない。

ただ、このような状況なので、セミナー室は80名定員のところ40名で実施している。また、博物館講座はこれまで申込なしでフリーで入っていただけだが申込制にして連絡先が分かるようにしている。

中身が面白いかわからないかは学芸員の腕次第。

### 《議事3 全体を通して》

(小林 副館長)

今、我々は指定管理4期目の最終年度となっており、これから市の方から次の指定管理期間についての募集要綱が配布され、その要綱を踏まえて提案書を作成していく。次の5年、どうやって館を運営していくか、こんな面白い企画



を考えているということを伝えていくつもりだが、今回はコロナを踏まえた上で提案書を作成しなければならないとも考えている。

秋が提案書の提出締切となってくるので、委員の皆さまからご意見を頂戴し、来年もここで博物館を運営していきたいと思っている。

(伊東 館長)

この場でなくても電話・書面等でもご意見いただければありがたい。

(橋本 委員)

小澤家の方でオリジナル手拭いを使ったマスクを作成・販売しているとの事だが、先日ドライブインに寄ったところ、お菓子のパッケージにアマビエがデザインされていて、可愛かったので買って来た。

県立歴史博物館も日本酒にひかりものの札を付けて売り出したと聞いている。オリジナルマスクにアマビエをデザインされたらいかがか。

(鷺尾 館長)

アマビエについては小澤家で無料で押せるスタンプを作成した。ほかには小澤家の家紋のスタンプなどもあり「疫病退散」の札などを用意して、来館者が自由に押して楽しんでいただけるものになっている。

実はアマビエのバッジも当館職員が作成したものがあり、先日の「おやつの日」のイベントで有料入館者がくじを引ける企画を立て、当たりくじの景品として提供した。有料で売っても売れそうな出来栄なので検討したい。

(池田 会長)

時流に乗るというのもひとつの方法ということではないか。

その他、ご意見やアイデアがあれば、みなとびあの方へ伝えていただければ、みなとびあ・小澤家の方で応えて努力してくれると思う。

以上